メッセージ　7

三一の神がご自身をわたしたちの中へと分与するという永遠の祝福は、わたしたちに享受させ、また神のエコノミーを完成するためである

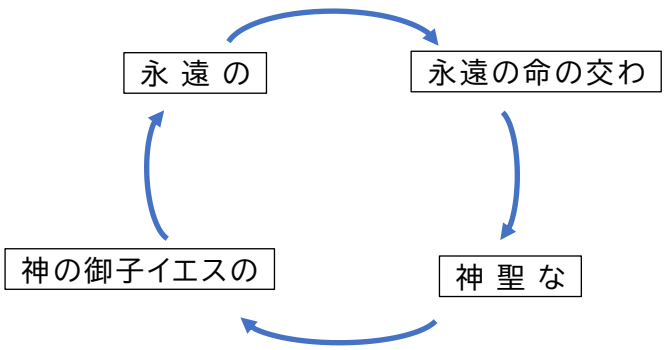
聖書：Ⅱコリント 13:14.　Ⅰヨハネ 1:2-7，9.　啓 22:1

三一の神の分与 永遠の祝福 わたしたちに享受させ	詩 36:8 彼らはあなたの家の脂肪分で満ち足り、あなたは彼らにあなたの楽しみの川から飲ませられます。 詩 36:9 あなたと共に、命の源泉があり、あなたの光の中で、わたしたちは光を見るのです。 Ⅱコリ 13:14 主イエス・キリストの恵みと、神の愛と、聖霊の交わりとが、あなたがた一同と共にありますように。 啓 22:1 また御使いは、水晶のように輝く命の水の川をわたしに見せた．それは神と小羊の御座から、大通りの中央を流れていた。
霊的な循環 神のエコノミーの完成	Ⅰヨハ 1:2（この命が現れました．わたしたちはこの永遠の命を見たので、あなたがたに証しをし、また伝えています．この永遠の命は御父と共にいましたが、わたしたちに現れたのです）． Ⅰヨハ 1:3 わたしたちが見たもの、聞いたものを、あなたがたにも伝えます．それは、あなたがたもわたしたちと交わりを持つためです．わたしたちの交わりとは、御父との、また御子イエス・キリストとの交わりのことです。 Ⅰヨハ 1:7 しかし、神が光の中におられるように、わたしたちが光の中を歩くなら、わたしたちは互いに交わりを持ち、御子イエスの血が、すべての罪からわたしたちを清めます。

三一の神がご自身をわたしたちの中へと分与するという永遠の祝福は、わたしたちに享受させ、また神のエコノミーを完成するためである			
Ⅰ	Ⅱコリント 13:14；三一の神がご自身をわたしたちの中へと分与するという永遠の祝福であり、わたしたちに享受させ、また神のエコノミーを完成するためです		
Ⅱ	**神の永遠の愛の中**へと入り、自分自身をその中に保つ	A-B	主を愛する
		C-G	主を愛することは、わたしたち主に仕える者の人格、人性を保護します
Ⅲ	**神の恵みの中**へと入り、自分自身をその中に保つ	A	耳を開き、恵みの言葉を聞かせ、恵まれることを経験し、恵みを与える
		B	尊い油、ヘルモンの露、永遠の命、からだの建造
Ⅳ	聖霊の交わりの中へと入り、自分自身をその中に保つ	A	交わりとは、信者の内側にある永遠の命の流れ、命の交わりです
		B-D	水平の交わり、垂直の交わり、織り込まれた交わり、真の交わり
Ⅴ	神聖な交わりはクリスチャン生活のすべてです	A-E	神聖な交わりは一、キリストのからだの一です
		F-H	神聖な交わりはキリストのからだの中の生活の実際です
Ⅳ	霊的生活における四つの極めて重要な事柄は、わたしたちを前進させ、命の円熟へと至らせ、成長した人に到達させます		

神聖な交わりの中でキリストを享受する

Ⅵ．わたしたちは神聖な交わりの中でキリストを享受しているとき、**わたしたちの霊的生活における四つの極めて重要な事柄の循環を絶えず経験します。**それは、**永遠の命、永遠の命の交わり、神聖な光、神の御子イエスの血です**……



結びの言葉 永遠の祝福としての三一の神の分与を享受する
唯一の目標　　神聖な三一の分与
生活のすべて　　神聖な命の交わり
霊的な循環　　命の円熟へと至る

メッセージ　7

三一の神がご自身をわたしたちの中へと分与するという永遠の祝福は、わたしたちに享受させ、また神のエコノミーを完成するためである

聖書：Ⅱコリント 13:14．Ⅰヨハネ 1:2-7，9．啓 22:1

Ⅱコリント 13:14；三一の神がご自身をわたしたちの中へと分与するという永遠の祝福であり、わたしたちに享受させ、また神のエコノミーを完成するためです

Ⅰ．「主イエス・キリストの恵みと、神の愛と、聖霊の交わりとが、あなたがた一同と共にありますように」（Ⅱコリント 13:14）。**これは、三一の神がご自身をわたしたちの中へと分与するという永遠の祝福であり、わたしたちに享受させ、また神のエコノミーを完成するためです：**

A．聖霊はキリストの恵みと御父の愛との循環、伝達であって、わたしたちのクリスチャン生活と召会生活の供給です。

B．召会生活全体は、わたしたちの内側の神聖で霊的な循環を描写しているⅡコリント第 13 章 14 節にかかっています。

C．Ⅱコリント第 13 章 14 節に啓示されている、神聖な三一の内なる循環としての神聖な三一の流れは、わたしたちの霊的命脈です。

D．神のエコノミーにおける神の意図は、彼の神聖な三一（父、子、霊）の中でご自身を彼の選ばれた人の中へと分与することです。時間における神の唯一の目標は、日ごとにご自身をわたしたちの中へと分与することです――詩 36:8-9。

神の永遠の愛の中へと入り、自分自身をその中に保つ

Ⅱ．三一の神がご自身をわたしたちの中へと分与するという永遠の祝福を享受するために、わたしたちは神の永遠の愛の中へと入り、自分自身をその中に保つ必要があります――エレミヤ 31:3：

A-B：主を愛する

A．「わたしたちが愛するのは、神がまずわたしたちを愛してくださったからです」（Ⅰヨハネ 4:19）。神がまずわたしたちを愛し、ご自身の愛をわたしたちに注入し、わたしたちの内側に愛を生み出してくださいました。わたしたちはこの愛をもって、彼を愛し、兄弟たちを愛します（20-21 節）。

B．申命記第 30 章 19 節から 20 節は言います、「わたしはあなたの前に、命と死、祝福とのろいを置いた．それゆえあなたは命を選びなさい．それはあなたもあなたの子孫も生き、エホバ・あなたの神を愛して、彼の御声に聞き従い、彼にしっかり結びつくためである．また、彼があなたの命であり、あなたの日数の長さであり」：

1．これらの節が啓示しているのは、命を選ぶ道は主を愛することであり、主を愛する道は、彼の御声に聞き従い、彼にしっかり結びつくことであるということです――申 30:19-20．啓 2:4，7．雅 3:4．8:13-14。

2．使徒第 11 章 23 節において、わたしたちがどのようにして彼にしっかり結びつくことができるかを啓示しています。バルナバがアンテオケに行ったとき、彼は、「心に決意して主にとどまるようにと、彼らをみな励ました」：

a．主にしっかり結びつくことは、心に決意して主にとどまることです。

b．これは主に対して絶えず忠信であり、彼と堅く結び付き、彼との密接な交わりの中で生きることです。

C-G：主を愛することは、わたしたち主に仕える者の人格、人性を保護します

C．わたしたちは主イエスを愛するとき、神聖によって豊かにされた彼の人性の中で、彼と同じになります。満ちあふれる神は、彼の豊富な属性の中で、彼のかぐわしい「イエス的な」人性の美徳を通して表現されます――Ⅱコリント 2:15。

D．これらの「イエス的な」人性の美徳は、超絶した愛、限りない寛容、無上の信実、極みまでのへりくだり、徹底した純潔、至高の聖と義、光明正大を含みます。これらの美徳は、四福音書に記録されているイエスの生活の実際を描写しており、その生活は今や、わたしたちが経験し、享受し、表現するための、わたしたちの内住する命です――エペソ 4:20-21。

E．わたしたちの内住する命としてのキリストは、絶対的に神のためであり、神の満足のためである生活をわたしたちにさせることができます。わたしたちの生活は、全焼のささげ物によって予表されている、イエスの人の生活の複製となります――レビ 1:4，13。

F．わたしたちはみな、主との十分な個人的な時間を費やし、わたしたちの霊の中で彼との愛情深く、私的で、霊的な交わりを持つ必要があります。それは、わたしたちが彼の愛する本質で満たされ、彼がわたしたちを通して他の人たちを牧養することができるためです。またわたしたちが彼の輝く要素で満たされることができるためであり、それは他の人たちがわたしたちを通して主を見るためです――雅 1:1-4．ヨハネ 4:24．ルカ 15:20．マタイ 5:15-16。

G．主に仕える者の人性は、主を愛することを通して保護されます。わたしたちが主を愛することは、わたしたちをイエスの人性の領域と範囲の中に保ちます。もしわたしたちが主を愛さないなら、主に引き寄せられることから来る規制を失い、何もかも行なってしまう恐れがあります――Ⅱテモテ 4:10，14．エペソ 4:17-21。

神の恵みの中へと入り、自分自身をその中に保つ

Ⅲ. 三一の神がご自身をわたしたちの中へと分与するという永遠の祝福を享受するために、わたしたちは、キリストの恵みの中へと入り、その中に立ち続ける必要があります。キリストの恵みとは、わたしたちの享受としての三一の神です――ローマ 5:2：

耳を開き、恵みの言葉を聞かせ、恵まれることを経験し、恵みを与える

A．わたしたちは日ごとに、主がわたしたちの耳を開き、彼の口から出て来る恵みの言葉を聞かせてくださることを必要とします。それはわたしたちが、愛する者の中で、御父が恵みをもってわたしたちを恵まれることを経験し、わたしたちに聞く人たちに恵みを与えることができるためです――エペソ 1:6．イザヤ 50:4-5．雅 8:13．ルカ 4:22．使徒 20:32．エペソ 4:29。

尊い油、ヘルモンの露、永遠の命、からだの建造

B．わたしたちは、召会生活の中で下ってくる露の命の恵みを享受し、自らを真の一の中に保つ必要があります。それは、神聖な三一の神聖な分与の中で、キリストのからだを徐々に建造するためです――詩第 133 篇。

詩 133:1　見よ、何とすばらしく、何と喜ばしいことであろう、兄弟たちが和合して住んでいる！

詩 133:2　それは、頭に注がれた尊い油が髭に、アロンの髭に流れ下り、彼の衣のすそに流れ下るようだ。

詩 133:3　また、ヘルモンの露がシオンの山々に下って来るようだ。まことに、エホバはそこに祝福を命じられた、すなわち命を永遠まで。

聖霊の交わりの中へと入り、自分自身をその中に保つ

Ⅳ. 三一の神がご自身をわたしたちの中へと分与するという永遠の祝福を享受するために、わたしたちは聖霊の交わり、すなわち、神聖な命の内なる流れの中へと入り、その中に自分自身を保つ必要があります――Ⅱコリント 13:14．民 6:22-27：

A：交わりとは、すべての信者の内側にある永遠の命の流れ、命の交わりです

A．交わりとは、すべての信者の内側にある永遠の命の流れです。彼らは、神聖な命を受けており、所有しています。これは新エルサレムにおける命の水の川の流れによって例証されています――啓 22:1。

B－D；水平の交わり、垂直の交わり、織り込まれた交わり、真の交わり

B．Ⅰヨハネ第 1 章 2 節から 3 節と 6 節から 7 節は、神聖な命の交わりに垂直の面と水平の面の両方があることを啓示しています：

1．Ⅰヨハネ第１章２節から３節は言います、「（この命が現れました．わたしたちはこの永遠の命を見たので、あなたがたに証しをし、また伝えています．この永遠の命は御父と共にいましたが、わたしたちに現れたのです）．わたしたちが見たもの、聞いたものを、あなたがたにも伝えます．それは、あなたがたもわたしたちと交わりを持つためです．わたしたちの交わりとは、御父との、また御子イエス・キリストとの交わりのことです」：

ａ．交わりの垂直の面は、わたしたちと三一の神との交わりを指しています。交わりの水平の面は、わたしたちの互いの交わりを指しています。

ｂ．使徒たちの初めの経験は垂直のものでしたが、使徒たちが永遠の命を他の人に伝えたとき、彼らは神聖な交わりの水平の面を経験しました。

２．６節は言います、「もし、わたしたちが神と交わりを持っていると言いながら、暗やみの中を歩いているなら、わたしたちは偽っているのであって、真理を実行していません」。これは交わりの垂直の面です。

３．７節は言います、「しかし、神が光の中におられるように、わたしたちが光の中を歩くなら、わたしたちは互いに交わりを持ち」。これは交わりの水平の面です。

４．命の交わり、命の内なる流れは、喜び、また命の光の内なる照らし、すなわち内なる支配という結果になります――4-5 節．ヨハネ 1:4．8:12．参照、Ⅱコリント 5:13。

Ｃ．わたしたちは神聖な交わりの垂直の面と水平の面との間の関係を見る必要があります：

１．もしわたしたちが主と正しい交わりを持っていないなら、信者仲間と交わりを持つことは難しいのです。同じように、もしわたしたちが信者仲間と正しい交わりを持っていないなら、主と交わりを持つことは難しいのです。この理由は、神聖な交わりが一つの交わりであるからです――使徒 2:42。

２．わたしたちは実際的にこの交わりの中にいないとき、その霊の外におり、三一の神の外におり、神聖な命の外にいます――参照、Ⅱコリント 13:14．Ⅰコリント 1:9．ピリピ 2:1。

３．わたしたちはできるだけ多く、わたしたちの信者仲間と交わりを持とうとすべきです。この神聖な交わりはわたしたちを矯正するだけではありません。それはまたわたしたちを鋳型に入れ、再構成さえします。この交わりは神聖な構成要素をわたしたちの霊的な存在の中へともたらし、わたしたちの存在の中で変化を持たせます。

Ｄ．水平の交わりは垂直の交わりに織り込まれます。この織り込まれた交わりが真の交わりです：

１．わたしたちは霊を活用することによって互いに真に交わるとき、祈ることと主と接触することを渇望します。これは、垂直と水平の面の交わりの間の関係が、いかに密接であるかを見せています。

２．わたしたちと聖徒たちとの水平の交わりは、わたしたちを主との垂直の交わりへともたらします。それからわたしたちと主との垂直の交わりは、わたしたちを聖徒たちとの水平の交わりへともたらします。

神聖な交わりはクリスチャン生活のすべてです

Ⅴ．神聖な交わりはクリスチャン生活のすべてです。わたしたちは、交わりがないとき、神も消えることを認識しなければなりません。神は交わりとして来ます：

A-E; 神聖な交わりは一、キリストのからだの一です

Ａ．電流が電気そのものであるように、神聖な命の交わり、神聖な命の流れは、神聖な命そのものです。

Ｂ．わたしたちのクリスチャン生活は命の交わりの生活です。最終的に、この神聖な交わりの中で、神はわたしたちと織り込まれます。このように織り込まれることは神と人とのミングリングです。

Ｃ．神聖な交わりは、三一の神をわたしたち、三部分から成る人の中へと分与して、わたしたちと神を一にすることです。「交わり」のギリシャ語の言葉は「共にあずかること」を意味し、この共にあずかることは一を生み出します。

Ｄ．実は、交わりとは一です。神がわたしたちと交わっているとき、そしてわたしたちが神と交わっているとき、それが神とわたしたちを一にします。全宇宙に大きな一

があり、この大きな一が神聖な交わりです。

E．主が願っているのは、父、子、霊が一であるように、わたしたちすべてを一にすることです。ヨハネ第 17 章で主は祈りました、「それは、わたしたちが一であるように、彼らも一となるためです」（22 節後半）。キリストのからだの一は、神聖な三一の拡大された一です（21 節）。

F-H;神聖な交わりは、キリストのからだの中の生活の実際です

F．神聖な交わりは、キリストのからだの中の生活の実際です：

1．主がまだ戻って来ない（啓 22:20）理由は、信者たちが個人主義的で、単独で、意見があり、分裂しているからです。

2．神聖な交わりの中に制限されることによってキリストのからだは、一の中に保たれ、その務めの働きは継続して前進します。すべてのものを生かすのは交わりです――エペソ 4:11-12．参照、エゼキエル 47:9。

G．交わりはまた、ある共通の目的のために、個人的な利益を捨て、他の人と結合することを示します。ですから、神聖な交わりの中で生きることは、わたしたちの個人的な利益をわきに置き、使徒たちまた三一の神と結合して、神の定められた御旨を完成することです――使徒 2:42．Ⅰヨハネ 1:3．Ⅰコリント 1:9．3:6，12。

H．最終的に、召会と神聖な三一は交わりの中で一です――ヨハネ 14:21，23。

霊的生活における四つの極めて重要な事柄は、
わたしたちを前進させ、命の円熟へと至らせ、成長した人に到達させます

Ⅵ．わたしたちは神聖な交わりの中でキリストを享受しているとき、わたしたちの霊的生活における四つの極めて重要な事柄の循環を絶えず経験します。それは、永遠の命、永遠の命の交わり、神聖な光、神の御子イエスの血です。そのような循環はわたしたちを、神聖な命の成長において前進させます。そしてついにわたしたちは命の円熟へと至り、一人の完全に成長した人に団体的に到達し、キリストの豊満の身の丈の度量にまで団体的に到達します――Ⅰヨハネ 1:1-9．ヘブル 6:1．エペソ 4:13。

メッセージ　8

三一の神を命として三部分から成る人の中へと分与することは、彼の義にしたがっており、彼の聖を通してであり、彼の栄光へと至る

聖書：ローマ 1:17．6:19，22．8:2，6，10-11，18，21．
9:23．11:36．12:1-5．16:27

三一の神を命として三部分から成る人の中へと分与する	ローマ 8:2 なぜなら、命の霊の法則が、キリスト・イエスの中で、罪と死の法則から、わたしを解放したからです。 ローマ 8:6 肉に付けた思いは死ですが、霊に付けた思いは命と平安です。 ローマ 8:10 しかし、キリストがあなたがたの中におられるなら、体は罪のゆえに死んでいても、霊は義のゆえに命です。 ローマ 8:11……あなたがたの死ぬべき体にも、命を与えてくださいます。
彼の義にしたがっており、	創 3:24 エデンの園の東に、ケルビムと、あらゆる方向に回る炎の剣を置いて、命の木への道を守らせられた。 Ⅰコリ 1:30 …このキリスト・イエスは、神からわたしたちに与えられた知恵、すなわち、義と聖別と贖いとなられました．
彼の聖を通してであり、	エペソ 5:25 キリストが召会を愛して、彼女（召会）のためにご自身を捨てられたように、 エペソ 5:26 召会を聖化し、言葉の中の水の洗いによって召会を清める… エペソ 5:27…聖くて傷のない栄光の召会を、彼がご自身にささげるため…
彼の栄光へと至ります	啓示録 21:21 十二の門は十二の真珠であり……都の大通りは純金であって、透明なガラスのようであった。 啓 21:2 わたしはまた聖なる都、新しいエルサレムが……天から出て…… 啓 21:11 それは（聖なる都は）神の栄光を持っていた

三一の神を命として三部分から成る人の中へと分与することは、彼の義にしたがっており、彼の聖を通してであり、彼の栄光へと至る			
Ⅰ	神の永遠のエコノミー：三一の神を人の中へと分与し、彼（神）の義、聖、栄光が団体の表現を得る		
Ⅱ	キリストの死：神の義、聖、栄光の要求を満たす キリストの復活：命を分与する霊と成り、わたしたちの義、聖、栄光となる	A	神の命は、三部分から成る人の中へと分与されて、わたしたちを命の人とします
		B-H	虹の三つの主要な色：青色（義）、赤色（聖）、黄色（栄光） 虹は神の信実を証しし、わたしたちを義、聖、栄光とならせる
Ⅲ	ローマ書の啓示、召会は・・・ 神の義（神の手続き）を基礎とし、 神の聖（神の性質）を過程とし、 神の栄光（神の表現）を目標として、 地方召会を通してキリストのからだの実際を得なければならない	A-E	ローマ書の基本構造； 義、聖、栄光、召会生活において実際化されているからだの生活
		F-G	わたしたちが新エルサレムになります： キリストがわたしたちの義の堅固な土台、わたしたちの聖の純粋な構成要素、わたしたちの栄光の輝く表現となる

（朝ごとの食物）第 8 週　三一の神を命として三部分から成る人の中へと分与することは、彼の義にしたがっており、彼の聖を通してであり、彼の栄光へと至る			
日	段落、流れ	主題	要点
1	神のエコノミー	神のエコノミーと彼の義、聖、栄光	神の分与は、義、聖、栄光を人性の美徳とする
			命を与える霊としての神の分与
2	神の分与 命の人となる	三一の神の命が三部分からなる人の中へと分与される	キリストの死と復活によって
			命の霊を分与することによって、わたしたちは命の人とされます
3	虹	虹の三つの主要な色の意義	虹の三つの主要な色
			虹の意義とは契約の生活です
4		虹の霊的な実際と究極の現れ	虹の霊的実際
			虹の永遠における現われ
5	ローマ人への手紙	義、聖、栄光とローマ書の構造	三種類の神聖な属性とローマ書
			三種類の神聖な属性とキリストの働き
6	召会 新エルサレム	義、聖、栄光が召会と新エルサレムにおいて現わされる	義、聖、栄光が召会において現わされる
			義、聖、栄光が召会と新エルサレムにおいて現わされる

神の永遠のエコノミー:
三一の神を人の中へと分与し、彼(神)の義、聖、栄光が団体の表現を得る

Ⅰ．**神の永遠のエコノミーとは、ご自身を命の霊の法則として人の中へと分与して、義、聖、栄光という彼の神聖な属性が人の人性の美徳となり、神の団体の表現、すなわち地方召会におけるキリストのからだの実際となって、義、聖、栄光の都としての新エルサレムを究極的に完成するということです——創** 2:9. **ヨハネ** 10:10 **後半**. 14:6 **前半**. **Ⅰコリント** 15:45 **後半**. **ローマ** 8:2. **Ⅱペテロ** 3:13. **啓** 21:2, 9-11：

A．神の願いは、ご自身をわたしたちの中へと造り込んで、彼がわたしたちとなり、わたしたちが彼となるに至ること、わたしたちと彼が命、性質、かたちにおいて完全に一体化することです。これは彼のエコノミーの頂点です——ヨハネ 1:12-13. Ⅱペテロ 1:4. Ⅱコリント 3:18。

B．人は生ける器として神のかたちに創造されました。それは神を命として受け入れ、内容とし、命における神の複製、複写となるためです——創 1:26. 2:7. ローマ 9:21, 23. Ⅱコリント 4:7. ヨハネ 12:24。

キリストの死　:神の義、聖、栄光の要求を満たす
キリストの復活:命を分与する霊と成り、わたしたちの義、聖、栄光となる

Ⅱ．**キリストは十字架上で死んで、神の義、聖、栄光の要求を満たし、復活させられて命の木の実際としての命を分与する霊と成り、わたしたちの義、聖、栄光となりました——創** 3:24. **Ⅰコリント** 15:45 **後半**. 1:30. **参照、エペソ** 5:25-27：

神の命は、三部分から成る人の中へと分与されて、わたしたちを命の人とします

A．三一の神の命は、わたしたちの三部分から成る存在の中へと分与されて、わたしたちを命の人とし、神の子たち、またキリストの肢体として、キリストのからだを構成し、彼の表現として、神の当初の意図を完成します——創 2:7, 9. ローマ 8:14. 12:5：

1．「命［ギリシャ語、ゾーエ（zoe）］の霊の法則が、キリスト・イエスの中で、罪と死の法則から、わたしを解放した」——8:2。

2．「キリストがあなたがたの中におられるなら、体は罪のゆえに死んでいても、霊は義のゆえに命［ギリシャ語、ゾーエ（zoe）］です」——10 節。

3．「霊に付けた思いは命［ギリシャ語、ゾーエ（zoe）］と平安です」——6 節。

4．「イエスを死人の中から復活させた方の霊が、あなたがたの中に住んでいるなら、キリストを死人の中から復活させた方は、あなたがたの中に住んでいる彼の霊を通して、あなたがたの死ぬべき体にも、命［ギリシャ語、ゾーエ（zoe）］を与えてくださいます」——11 節。

B-H:
虹の三つの主要な色:青色(義)、赤色(聖)、黄色(栄光)、虹は神の信実を証しし、わたしたちを義、聖、栄光とならせる

B．神の御座の周りにある虹の三つの主要な色は、青色（サファイアの御座の色で、神の義を表徴する——エゼキエル 1:26. 詩 89:14）、赤色（聖別する火の色で、神の聖を表徴する——エゼキエル 1:4, 13, 27. ヘブル 12:29）、黄色（輝くこはく金の色で、神の栄光を表徴する——エゼキエル 1:4, 27. ヘブル 1:3）です。

C．神の御座の周りの虹が表徴しているのは、神が契約を結ぶ神、信実な神であって、彼が裁きを地に対して執行しているとき、彼の新しい契約を守り、命の新しさを彼の選ばれた人たちの中へと分け与えて、彼らを新エルサレムとするということです——創 9:8-17. 啓 4:3. 21:2. ローマ 6:4. エゼキエル 1:26-28. 36:26-27：

1．虹は、もはや死の裁きはないという契約を守ることにおいて神が信実であることのしるしです。わたしたちは新しい契約の下に生きなければならず、いかなる失敗、弱さ、暗やみ、消極的なものも信じてはなりません。わたしたちは契約を持っている民であり、あらゆる状況に応じる約束の御言葉を持っています——哀 3:22-23. ローマ 8:1. Ⅱコリント 12:9. Ⅱテモテ 1:10. 2:1. ユダ 24 節. Ⅰヨハネ 1:9. Ⅰコリント 1:9。

2．わたしたちは召会生活の中で安心し、平安でいることができます。なぜなら、も

はや死がないからです。わたしたちは「もはやない」と宣言すればするほど、いかなる死も、いかなる失敗も、いかなる弱さも、いかなる暗やみもないことをますます認識します。なぜなら、わたしたちは神の契約の下で生きているのであって、自分の感覚や罪の意識、あるいはいかなる環境の下で生きているのでもないからです。

3．わたしたちは神の契約の尊く偉大な約束によって安全にされ、保証され、保護されています（Ⅱペテロ 1:4）。神の契約は、空が曇っているときはいつでも、わたしたちが神の信実を呼び出さなければならないこと（わたしたちが「虹を呼び出す」ことを意味する）を宣言します。

4．神は彼の言葉に対して信実であり、彼の言葉は遺言、契約です（Ⅰコリント 1:9. Ⅰヨハネ 1:9）。召会の民は契約の下にある民であるので、わたしたちは実は、「契約の召会」と呼ばれることができます。

D．この虹の霊的な実際は、今日の召会において現れるべきです。わたしたちは、神に完全な機会を与えて、聖別する火としてわたしたちの中で働いていただくことによって、神に彼の義なる臨在をもってわたしたちを満たしていただく必要があります。それは団体のキリストとしてのわたしたちの組み合わせを通して、彼の栄光に輝く表現を得させるためです――エゼキエル 1:5-14, 26-28。

E．キリストご自身は、義、聖、栄光の虹によって表徴されており、神が彼の民に与えた契約であって、彼らを「キリスト化」します。すなわち、彼らを神格においてではなく、命、性質、表現において彼であるのと全く同じにします――イザヤ 42:6. ヘブル 8:10-12。

F．キリストは神からわたしたちに与えられた知恵であり、ご自身をわたしたちの中へと、義（わたしたちが霊の中で再び生まれるため）、聖別（わたしたちが魂の中で造り変えられるため）、贖い（わたしたちが体において栄光化されるため）として伝達しています――Ⅰコリント 1:30. ローマ 8:10. 12:2. 8:23. ピリピ 3:21。

G．キリストを神の多種多様な知恵としてわたしたちの存在の中へと伝達することは、わたしたちを三一の神の傑作とならせ、彼であるすべての知恵ある展覧とします。すなわち、彼の詩とならせ、彼の無限の知恵と神聖な設計を表現します――Ⅰコリント 1:30. エペソ 2:10. 3:9-11。

H．永遠において新エルサレム（その土台に虹の外観がある都――啓 21:19-20）として、わたしたちは虹であり、神が信実であること、彼の新しい契約を成就して、わたしたちを、義、聖、栄光としての彼と完全に同じにすることを、わたしたちは証しします――10-11 節。

ローマ書の啓示、召会は･･･神の義（神の手続き）を基礎/神の聖（神の性質）を過程/神の栄光（神の表現）を目標とし、地方召会を通してキリストのからだの実際を得なければならない

Ⅲ．ローマ人への手紙が啓示しているのは、あらゆる召会に神の義（神の手続き）の基礎、神の聖（神の性質）の過程、神の栄光（神の表現）の目標があって、わたしたちを神の心の中にもたらし、地方召会を通してキリストのからだの実際がなければならないということです――ローマ 1:17. 8:10. 6:19, 22. 8:18, 21. 9:23. 11:36―12:5. 16:27：

A- E;

ローマ書の基本構造；義、聖、栄光、召会生活において実際化されているからだの生活

A．ローマ人への手紙が啓示しているのは、神の幕屋がからだの生活であり、召会生活において実際化され（第 12 章―第 16 章）、義（3:21―5:11）、聖（12 節―8:13）、栄光（14-39 節）を基本的な構造としているということです：

1．キリストの贖いを通しての義認は外庭にあり、聖別は聖所にあり、栄光化は至聖所にあります。

2．召会生活は、三一の神と彼の選ばれた人とのミングリングです。彼らは義とされ、聖別され、栄光化され、共に建造されて幕屋、すなわち諸地方召会におけるキリストのからだの実際となり、新エルサレム、神の究極の幕屋において究極的に完成します――啓 21:3。

3．三一の神を分与することは、彼の義にしたがっており、彼の聖を通してであり、彼の栄光へと至ります。三一の神を命として分与することの最終目標は、栄光、すなわち、キリストのからだとしての召会の中にある、召会を通しての神の表現です――ローマ 5:17. 6:19-23. 8:18, 21. 16:27. エペソ 3:16-21。

B．キリストの死は神の義のためであり、キリストの復活は神の聖のためであり、キリストの昇天は神の栄光のためです。キリストが戻って来るとき、彼の聖徒たちの栄光化は究極的に完成されます。

C．キリストはわたしたちの身代わりとして、わたしたちのために十字架上で死んで、神の義なる要求を満たし、わたしたちを義として、彼がご自身を命としてわたしたちの中へと分与することができるようにしました――ヨハネ 19:34．ローマ 1:17．3:23-25．5:18．啓 22:14：

1．正常なクリスチャンは、キリストと共に死に、日ごとにこの事実にしたがって行動する人です。もしある信者が天然の方法で生きるなら不義ですが、十字架の死を経験するなら、あらゆる事で、あらゆる人に対して、あらゆる面で義です――ガラテヤ 2:20．Ⅱコリント 3:9。

2．キリストの死と、わたしたちがキリストと共に死ぬことだけが、神の義の要求を満たし、神に立場を与えて、彼が義にしたがって神聖な命としてのご自身をわたしたちの全存在の中へと分与し、わたしたちが命によって飲み尽くされて、命の都となるようにします――ローマ 8:10，6，11．Ⅱコリント 5:4。

3．新契約の奉仕者として生活し奉仕することは、義の道を歩むことであり、わたしたちには神のしもべとなる何の資格もないこと、わたしたちは肉の中の人として、死と葬り以外に何の益もないことを承認することによって、キリストを生かし出し、キリストを真に表現することです――マタイ 3:13-17．21:32。

D．聖化は聖の主観的な活動です。それは活動における聖です：

1．聖化は、「その霊、聖なる方」としての復活したキリスト、すなわち、わたしたちの霊の中の聖別する霊が、神の聖なる性質としてのご自身をわたしたちの存在の中へと造り込んで、わたしたちを聖なる都とすることです――Ⅰテサロニケ 5:23．ローマ 6:19，22．15:16．8:4。

2．神聖な聖別は、神聖なエコノミーを遂行することでの保持する線、すなわち神の有機的な救いの過程であり、人を神化する神の行動として、人を神格においてではなく、命と性質において神とします――ヘブル 2:10-11．エペソ 1:4-5．啓 21:2。

3．新契約の奉仕者として生活し奉仕することは、命の新しさの中を歩き、霊の新しさの中で仕え、神の福音の労苦する祭司として、救われた罪人を、聖霊の中で聖別された、受け入れられるささげ物として、神にささげることです――ローマ 6:4．7:6．15:16。

E．三一の神を分与することの究極の目標は、神がキリストのからだを通して表現され、召会の中で彼の栄光が現されることです――エペソ 3:20-21．ローマ 8:19，21，28-30．16:27：

1．ヨハネ第 17 章の一は召会です。自己を徹底的に否むことによって一が完全に実現するとき、御子は召会の中で御父の栄光を現します――ヨハネ 17:1，21-23。

2．これは、正当な召会生活がある所ではどこでも、御父の栄光が現されることを示します。なぜなら、召会生活は御父を表現するからです。

3．新契約の奉仕者として生活し奉仕することは、すべてを神の栄光のために行ない、キリストを高く上げることです――ローマ 11:36．Ⅰコリント 10:31．ピリピ 1:20．Ⅱコリント 4:5。

F-G: わたしたちが新エルサレムになります: キリストがわたしたちの義の堅固な土台、わたしたちの聖の純粋な構成要素、わたしたちの栄光の輝く表現となる

F．三一の神を命として分与することは、彼の義にしたがっており、彼の聖を通してであり、彼の栄光へと至ります。これは、**わたしたちが新エルサレムとなり**、キリストをわたしたちの義の堅固な土台、わたしたちの聖の純粋な構成要素、わたしたちの栄光の輝く表現として持つためです――啓 21:2，9-11。

G．こうして、手順を経て究極的に完成された神としてのその霊と、手順を経て究極的に完成された召会としての花嫁は、結合されて命における一つの実体である愛の夫婦となり、永遠に至ります――22:17 前半．参照、Ⅰコリント 6:17。

結びの言葉
三部分からなる人、 命としての三一の神を受け取る
契約のある人、 神の信実の保証を経験する
契約の召会、 聖別、義、栄光を表現する